

『 えどがわABA基礎講座 ③ 』

困った行動の分析と対処を学ぶ！
「3つの箱」ワーク

江戸川区発達相談・支援センター主催

センターの概要



発達障害相談事業

発達に関する悩みや発達障害について、子どもから大人までのご相談に応じ、必要な支援先に繋いでいきます

ご本人やご家族からの相談

子ども（18歳未満）

- ▶ ことが遅いように感じる
- ▶ 会話がうまくできない
- ▶ 落ち着きがない
- ▶ 注意散漫・集中が続かない
- ▶ 忘れ物が多い

大人（18歳以上）

- ▶ 発達障害について診てくれる医療機関を知りたい
- ▶ 忘れ物や遅刻が多い
- ▶ 家庭や職場でのコミュニケーションがうまくいかない

関係機関からの相談

- ▶ 使える制度や資源が知りたい
- ▶ 利用児・者や保護者との関わり方を相談したい
- ▶ 利用児・者や保護者への発達相談の勧め方について相談したい



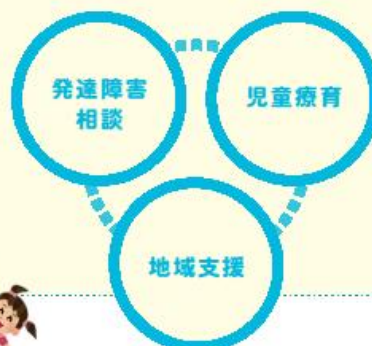
18歳未満の方の発達に関する相談（発達相談室「なないろ」）

03-5875-5101

18歳以上の方の発達に関する相談（発達障害相談センター）

03-5875-5401

※相談料は無料です。



地域支援事業

特性や障害の有無にかかわらずすべての人が可能性を最大限に広げ自分らしく暮らせる地域にむけて様々な学びや協働の事業を行っています

幼稚園・保育園・学校支援

- 発達障害体験ワークショップ
- 乳幼児施設巡回支援
- 研修講師派遣

児童発達支援・放課後等デイサービス支援

- 発達支援地域事例検討会
- えどがわ ABA 訓練講座（基礎～発展）
- 訪問コンサルテーション

本人・家族支援

- 親支援講座（年6回）
- 短期ペアレントトレーニング
- サポートファイル作成会
- 園での出前講座
- 発達が気になる小学生の放課後クラブ「すきを探索!キッズラボ」
- 成人当事者向け事業「あるある!じぶんラボ」

区民との交流・情報提供

- 公開シンポジウム開催
- リーフレット配布
- まつりへの出展



児童療育事業

未就学のお子様を対象に、密度の高い個別指導と、保護者の支援ニーズに応じた集団指導を行っています

個別指導

べあすく

親子共学型療育支援プログラム

- 1回 80分、1年間（前期6カ月週1回、後期6カ月隔週1回）
- セラピストによるお子様への直接支援
- 家庭でも療育を実践するためのペアレントトレーニング

パソコンやスマートフォンなどのICTを活用し、支援効果の見える化を図っています。



予約制リハビリテーション

- 最大月1回の理学療法士（PT）・作業療法士（OT）・言語聴覚士（ST）などの専門職によるリハビリテーション支援を提供



1年間のべあすく終了後は就学まで下記のフォローアップ支援をご利用できます

予約制コンサルテーション

- 最大月1回のコンサルテーションを提供

ピアグループ型個別指導

- 2、3名の個別指導 1回 80分
- 1対1で対応することもあります



<児童療育事業の料金> ※1回の料金（負担額）は所得に応じて0円～1200円程度です。
※区が定める利用者負担上乗率の範囲でご利用いただけます。※3歳以上は療育化の対象です。※障害児相談支援事業は無料です。

集団指導

毎日通園クラス

- 9:30～12:30 原則週5日間のクラス
- 集団活動や給食など
- 生活リズムの安定や身辺自立の習得を支援



短時間通園クラス

- 3～6名、1回 60分 平日の午前・午後
- 集団通園やコミュニケーションを支援

スクールトライアル

- 3～6名 1回 60分 平日夕方
- 就学に必要なスキルの習得を支援



医療的ケア児クラス

- 2、3名/日 9:30～13:00の間で応相談
- 医療的ケアが必要なお子様を対象に認知・コミュニケーション等の発達支援やリハビリテーションの支援を提供



障害児相談支援事業

児童福祉サービス等の利用に関わる相談支援及び利用計画の作成

保育所等訪問支援事業

保育所等への訪問支援による集団生活の適応のための直接支援及び支援者支援

就学前のお子様の療育支援（児童発達支援センター）

03-5875-5321

えどがわABA基礎講座とは？

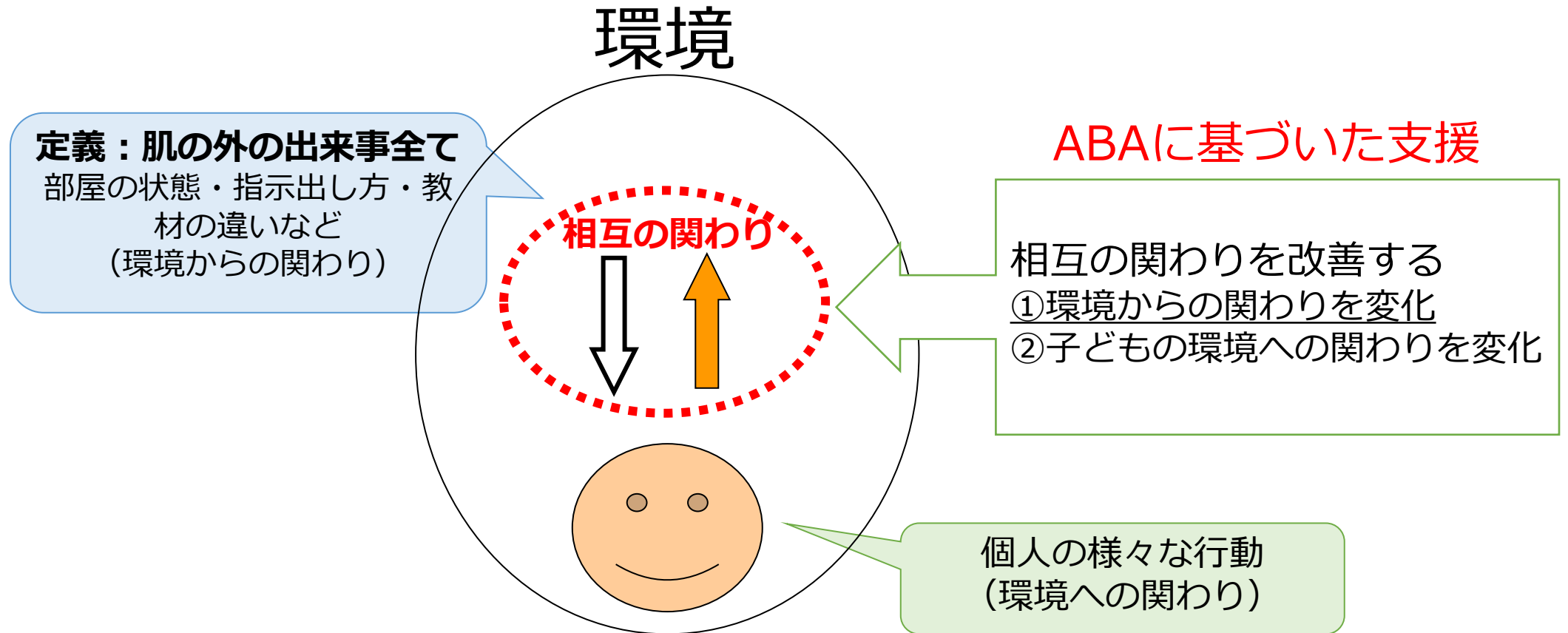
- 事業者同士で交流しながら、困った行動の分析や、適切な行動の習得支援の基礎を学べる全3回のオンライン開催の連続講座
- 応用行動分析(ABA)に基づく「実践」ノウハウを学ぶ
- 豊富な事例や映像、ロールプレイやワークを中心に学ぶ
- 3講座全て受講された場合、センターより基本講座受講修了証を発行
- 修了者かつ同意を頂けた方は、当センターHPにてお名前やご所属を公開させていただきます

地域の支援者間で
共通言語をもつ

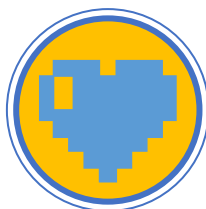
本日の達成目標は3つ

- ①ABAの考え方「3つの箱」を説明できる
- ②行動の4つの機能を説明できる
- ③プロアクティブな対策を考えられる

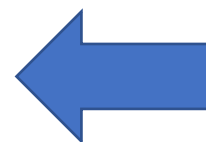
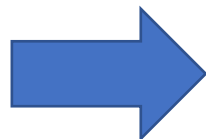
応用行動分析学の枠組み



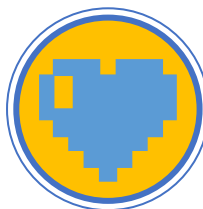
個人と環境の相互作用をひもとく



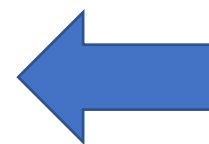
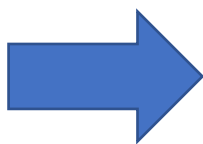
ママかまってよ！



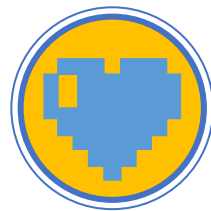
個人と環境の相互作用をひもとく



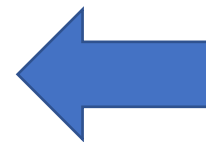
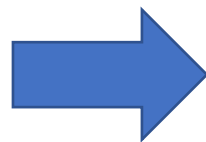
ガチャガチャやりたい！



環境と個人の相互作用をひもとく



むずかしいから教えて！



3項随伴性

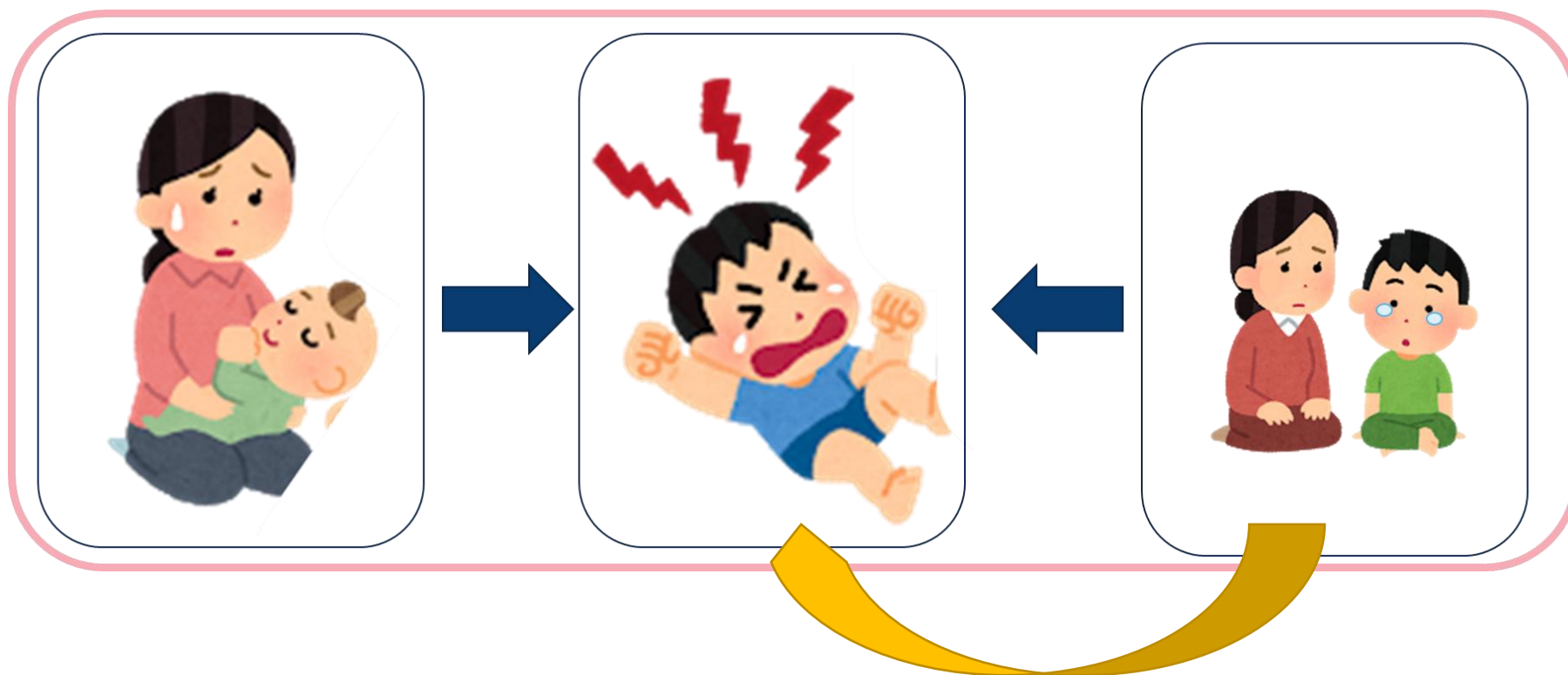


ママにかまってよ！

先行事象

行動

後続事象（強化子）



増加（＝強化）

適切な行動に注目をした関わり

A : 先行刺激

- 苦手な作文問題
- 静かな教室
- 個別に書く時間



A : 先行刺激

- ・ その子に合わせた課題提示
- ・ こまめに励まし
- ・ 座席位置の工夫
- ・ 先回りの援助
- ・ 書くべきポイントの視覚化

B : 行動

立ち歩く



C : 後続刺激

叱責 こら！書きなさい！
援助 ほらこうやって書くんだよ

B : 行動



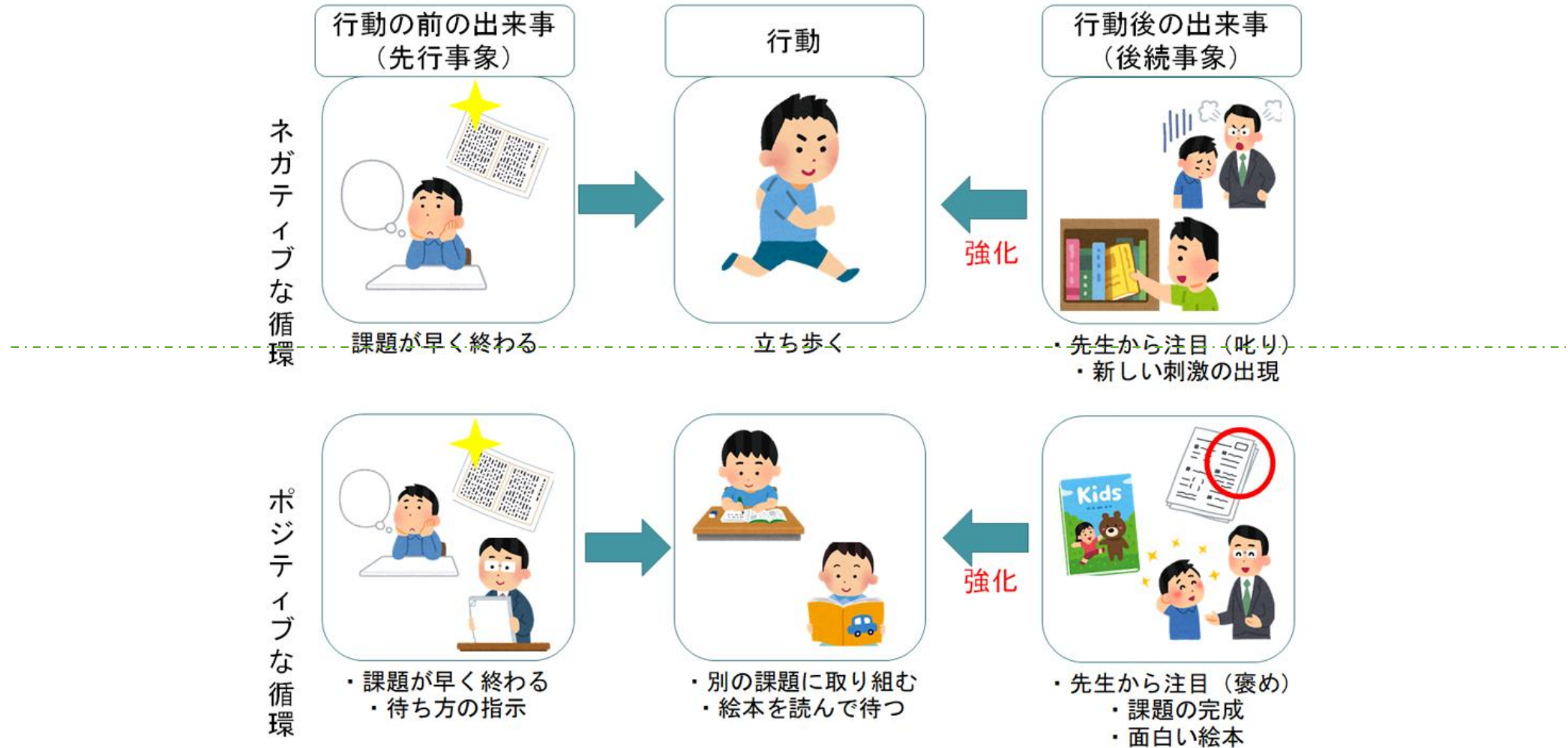
座って作文を書く

C : 後続刺激

- ・ ポジティブな注目(頑張ってるね！)
- ・ 作文の完成(達成感)

「適切な行動を引き出すきっかけを作り、適切な行動ができれば、強化する」
日常生活の中で繰り返していくことで、あらゆる適切な行動を増やすことができ、
子どもの発達を伸ばしていくことができます。

授業中に立ち歩いてしまう



困った行動の分析と対処-はじめに-

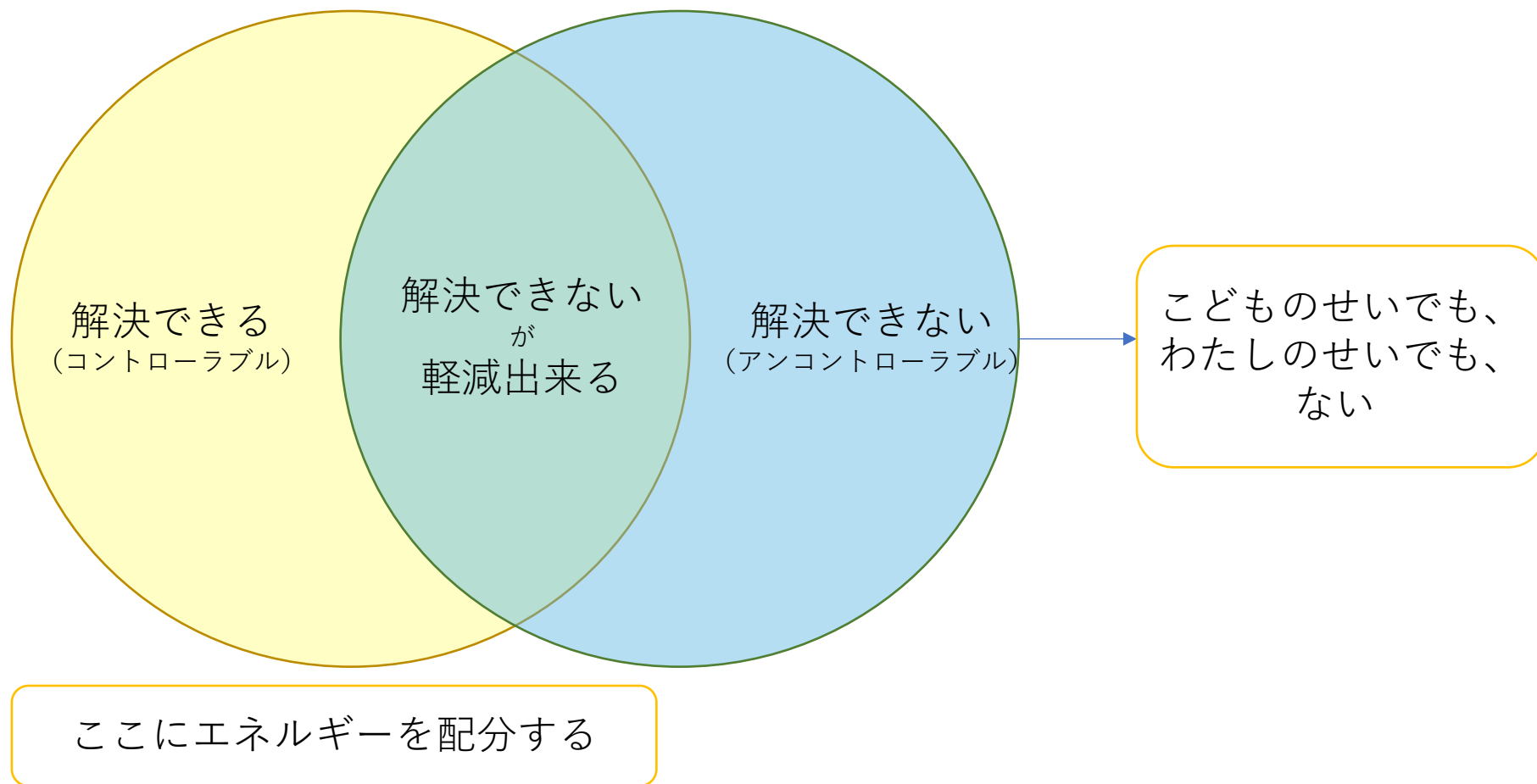
「困った行動」とは？

- ◆ 特定の「行動」が問題行動というわけではない。
- ◆ いつ、誰にとって、なぜ、「困った」行動なのか？
- ◆ なぜ、対処が必要なのか？

「困った行動」の分析・対処の前提

- ◆ 困った行動を「やめさせる」よりも、替わりとなる適切な行動を増やすことに注目する。
- ◆ 原則として、それが起きないようにすることが大切。

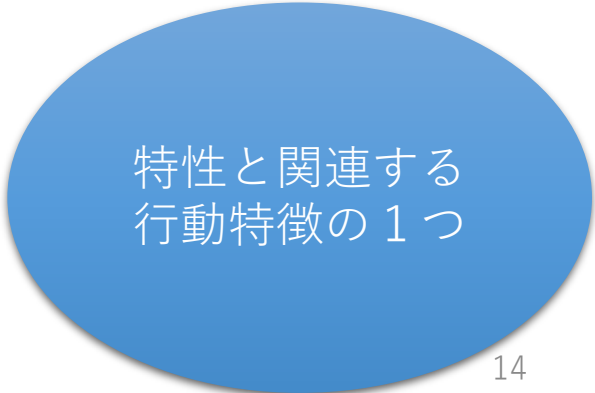
前提 困りごとには解決できるものと付
き合っていくものがある



「不注意」傾向の強い子どもの「忘れ物」

不注意症状とは

- 細部に注意を払わない，または学業課題やその他の活動を行う際にケアレスミスをする
- 学校での課題または遊びの最中に注意を維持することが困難である
- 直接話しかけられても聴いていないように見える
- 指示に従わず，課題を最後までやり遂げない
- 課題や活動を順序立てることが困難である
- 持続的な精神的努力の維持を要する課題に取り組むことを避ける，嫌う，または嫌々行う
- しばしば学校の課題または活動に**必要な物を失くす**
- 容易に注意をそらされる
- **日常生活でもの忘れが多い** など・・・



特性と関連する
行動特徴の1つ

「不注意」傾向の強い子どもの「忘れ物」

- できる時もあるので、「なまけている」と言われがち・・・
- 努力しているのにできない、ところに特性や苦手さがあると思う
- 忘れ物を100%しないこと（**解決できない**）
- 持ち帰るものを減らすなど、忘れ物のきっかけになる機会を減らす配慮を先生に相談（**解決できる**）
- チェックリストや家庭でのフォローで忘れ物をしなかった割合を増やしていく（**解決はできないが軽減できる**）
- 例 毎日だったのが週に3日に！変化を褒める

「できる」と「できない」
の間に
「できるけど疲れる」
がある

ポジティブ行動支援とは (Positive Behavior Support)

- ・ PBSの特徴（平澤, 2015）
 - ✓ 罰を用いない非嫌悪的なアプローチ
 - ✓ 対象者の生活する場を重視する生態学的妥当性の重視
 - ✓ 問題行動の減少に限定せずに適応行動の拡大を目指す
 - ✓ 対象者や関係者の QOLの向上を目指す
- ・ 背景
 - ✓ 米国におけるノーマライゼーションや権利擁護の運動と連動し、行動的介入における「非嫌悪的なアプローチ」の推奨
 - ✓ 嫌悪的なアプローチを厳密に避けるより、ポジティブな行動をサポートする重要性を提言（Horner et al., 1990）→PBS へと発展

ポジティブ行動支援（PBS）に基づいた問題解決

Step 1
機能分析



Step 2
プロアクティブ
対応の実施

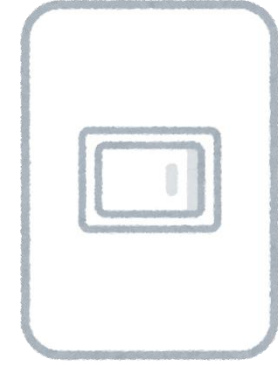


Step 3
適切な行動の増加



例題

3歳の息子は、今ボタンを押すのが大好きで、家では少し目を離すと部屋の電気のスイッチを点けたり消したりします。「やめなさい」と止めに行くと、その時は止めますが、すぐにまたやりたくなるようです。玩具で遊んでいても、ちょっと飽きてくるとすぐやりに行きます。いつも叱っていますが、減りません。おやつを食べているときとビデオを見ているときは、おとなしいんですが、、チカチカして視力が心配ですし、私も頭痛がして困っています。どうしたらいいですか？



ストラテジーシート

記入日： / /

氏名： ③

機能分析

対処・適切な行動への置き換え

②

A: 行動の前の状況・きっかけ	①	B: 子どもの困った行動	③	C: 行動の後の状況・結果
			☐ 回避 ☐ 注目 ☐ 要求 ☐ 感覚	

⑤

事前の工夫	⑥	子どもの適切な行動

置き換え

④

大人のどんな対応が、
子どもの行動を維持していた？

どんな対応をするべきだった？



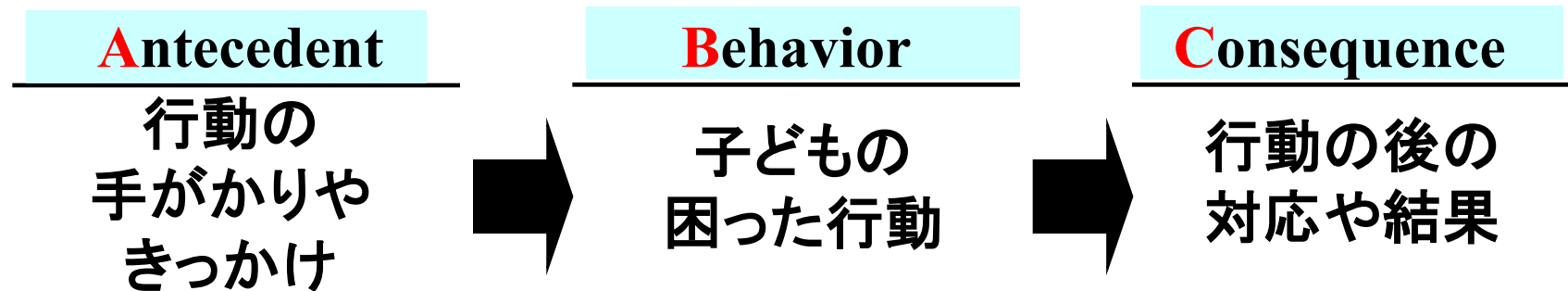
適切な行動は、全力でほめる！！

Step 1

行動の機能分析（ABC分析）

- 子どもの行動について「行動の前の状況→困った行動→もたらされた結果」の3つの枠組みで記述し、分析する

＝正確な分析をするには、実際には1～2週間程度、特定の行動について記録をつける必要。



困った「行動」の記述

➤ 行動を正確に記述する

✓ 「～しない」と記述しない。「～する」、または「～しないで～する」と記述する。

* 参考: **死人テスト「死人でもできることは行動ではない。」**

✓ 具体的に記述する。

(例: ×「パニックになる」、○「床に寝そべって奇声をあげる」)

➤ 「行動の前後の状況」を記述する

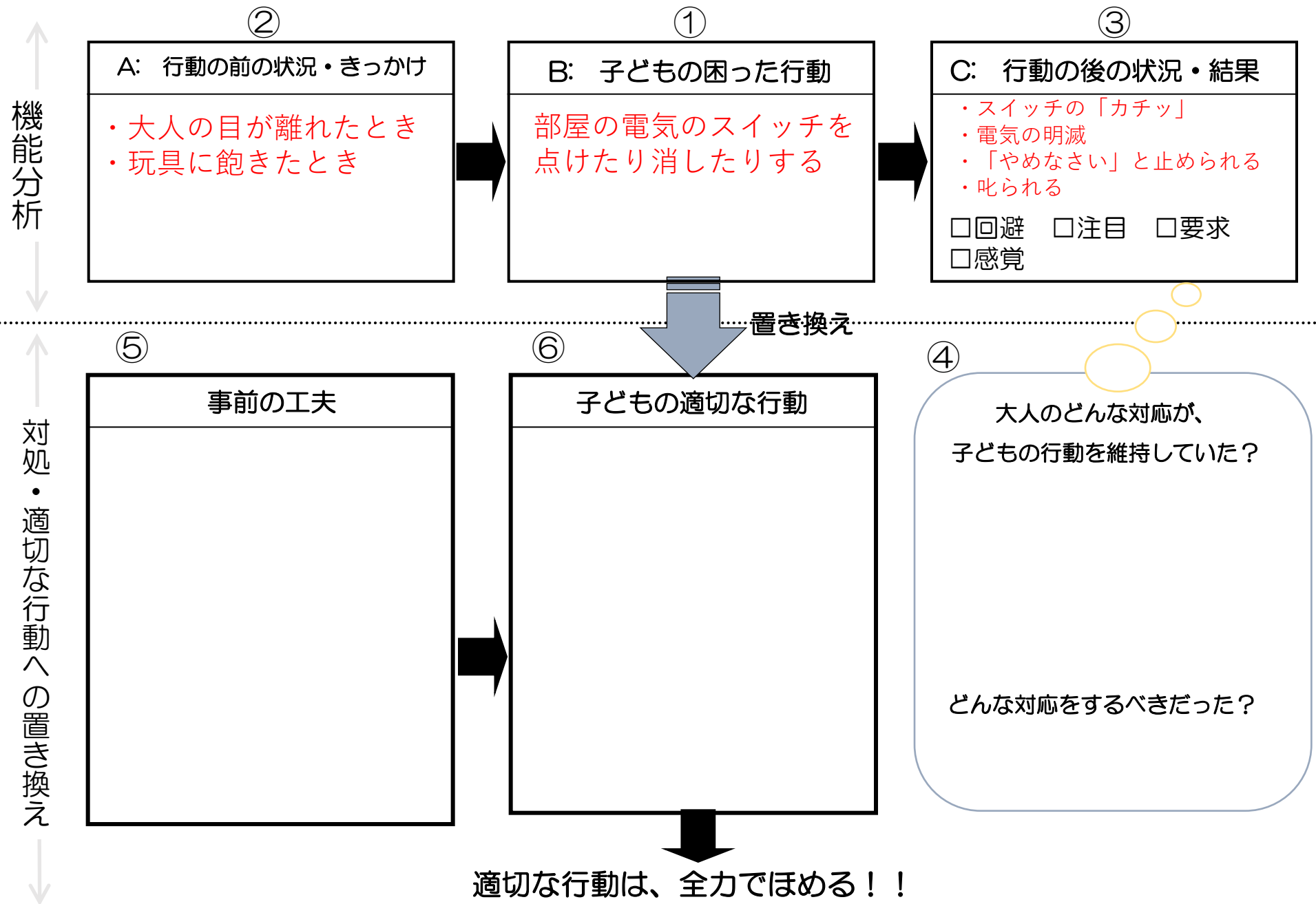
✓ 行動の主体が感じるあらゆる刺激や環境の変化に着目

ストラテジーシート

記入日：

/ /

氏名：



4つの機能とその対処

困った行動の機能を分析し、
起きてしまった時は機能ごとに対処します

※場面によって優先順位は違うので、とらわれすぎない

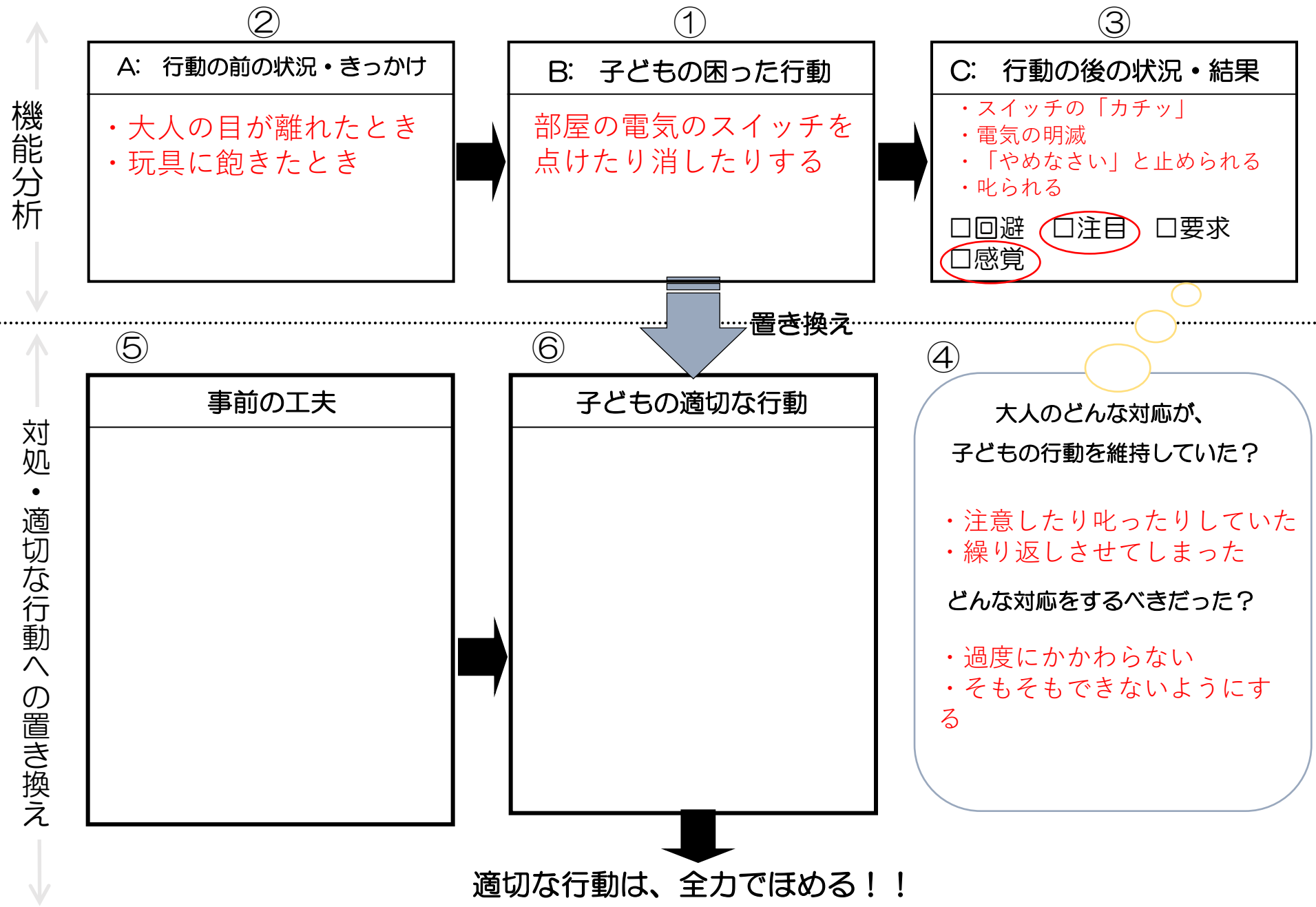
機能	働き	意味	対処
回避	嫌な状況や活動をしないで良い、避けることができる	「やりたくない」 「わからない」 「おしまいにしよう」	手助けをして活動を遂行
注目	周囲の人の注目や関わりを得ることができる	「見て！」 「こっち来て！」 「構って！」	過度に構わない、 淡々と対処
要求	欲しい物や状況が得られる、子供にとって望ましいことが起きる	「ちょうだい！」 「～して！」	物や活動を与えない
感覚	感覚や刺激そのものが心地よい	刺激そのものが気持ちいい、楽しい	させない 他の活動に誘う

ストラテジーシート

記入日：

/ /

氏名：





Step 2 ！重要！
プロアクティブな対応の実施
(困った行動が起きにくい事前の工夫)

「未然に防ぐ」ことが最も重要である

Qなぜ？

困った行動の予防と適切な行動の生起が両立

Proactiveな対応のポイント

- 物理的環境の整備
- 動機づけをあげる工夫
- 課題や要求水準の最適化
- 教材や働きかけの改善

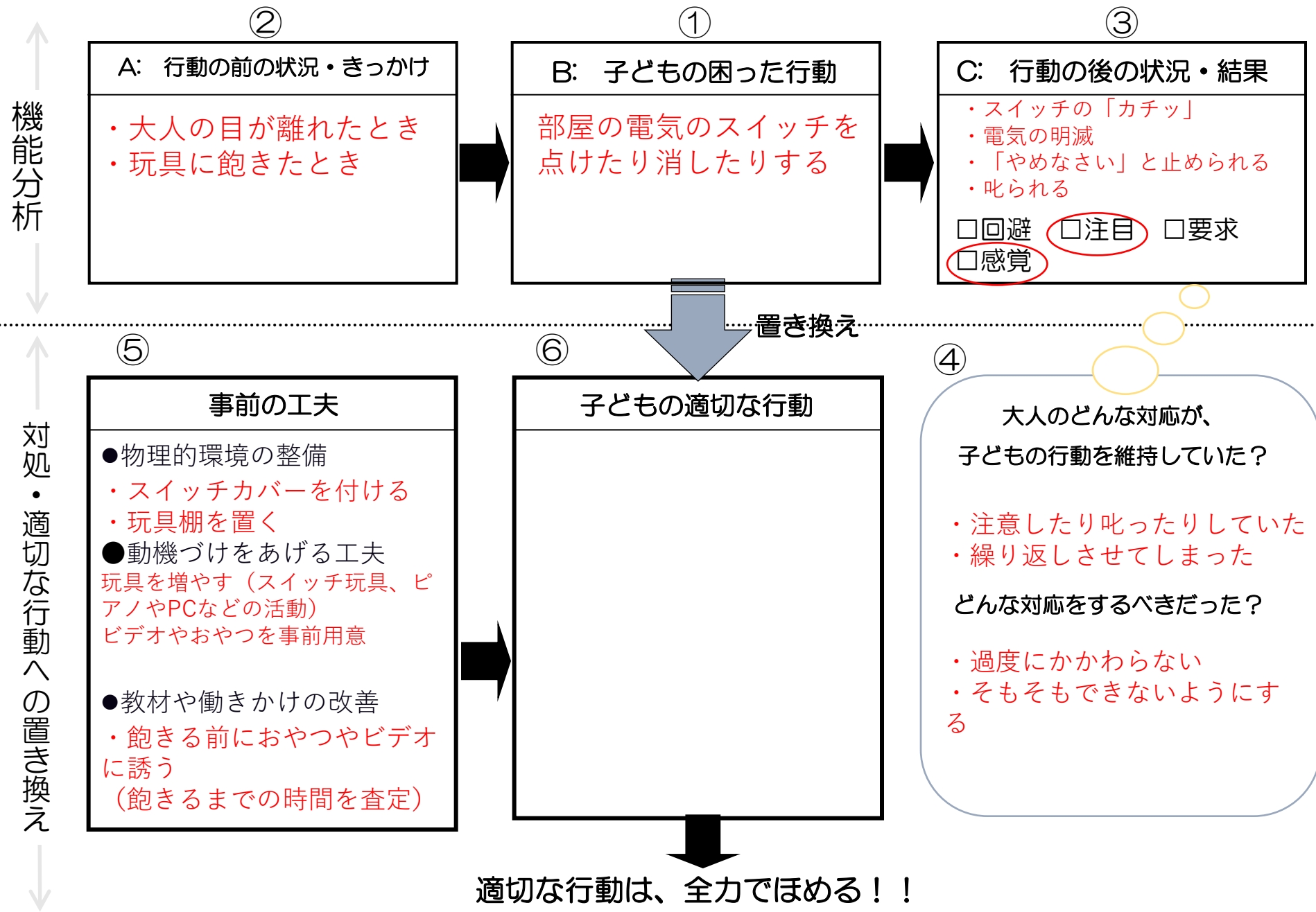


ストラテジーシート

記入日：

/ /

氏名：





Step 3

適切な行動の増加

- 子どもが“叱られない”だけでなく、強化される機会を増やす。
- 行動のレパトリーを増やす

適切な行動を決めるポイント！

● 「困った行動」と両立しない行動

例：課題中、つめを噛んでしまう→噛む用のおもちゃを噛む
言葉や歌による自己刺激→簡単な掛け声でやりとりする

● 「困った行動」に置き換わる行動

例：難しい課題の時に泣き叫んでしまう→「手伝って」と言う
休み時間に、好きなお友達を叩いてしまう→「あそぼう」と言う

● 子どもが簡単にできる行動で、場面に沿う行動

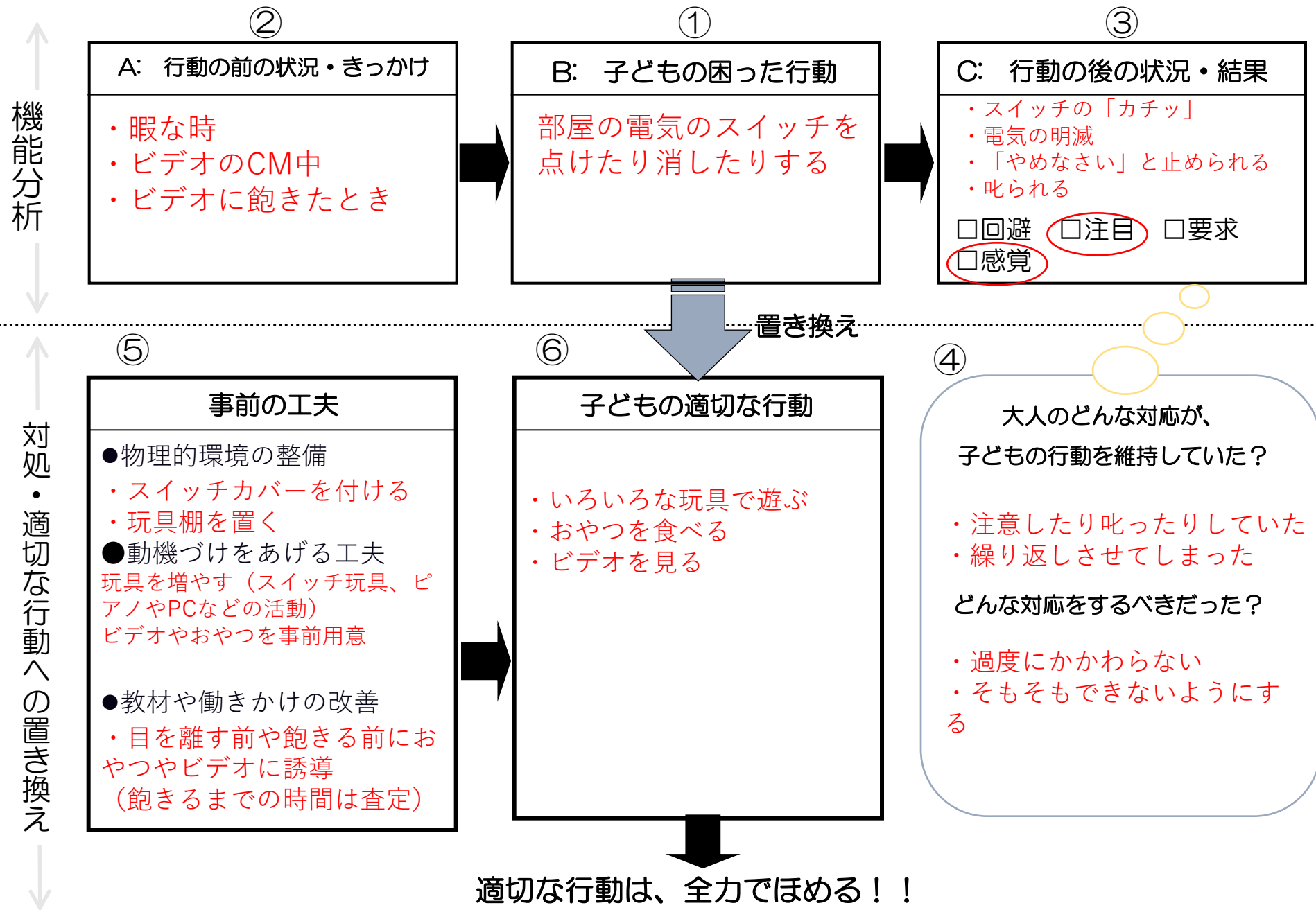
例：電車の中で暇な時騒いでしまう→イヤフォンで好きな音楽を聴く
絵本読みの時間に走り回る→椅子に座り好きなパズルをして待つ

ストラテジーシート

記入日：

/ /

氏名：



ディスカッション

あなたは発達支援コンサルタントです。
学校の先生に以下のような相談を受けたとします。

クラスに、自閉症スペクトラム障害の診断がある生徒がいます。調子が悪いと、癇癢を起したり、お友達を叩いたりしてしまいます。調子がいいと、穏やかなんですが……。自閉症だから話せないし、一人で遊ぶのが好きなので、正直孤立しています。癇癢さえ治せば、少しはクラスに受け入れてもらえると思うのですが、何か方法はありますか？



先生への聞き取り（情報収集）を通じて、行動を分析するために、どんな質問をしますか？

ワーク

- ①シートを参考に、チームで質問を5つ考えて下さい。
- ②得た情報をもとに、チームでストラテジーシートを完成させましょう。

質問

①

行動問題情報整理シート

行動前の出来事（先行事象）	行動	行動後の出来事（後続事象）
・ 誰 ・ 場面 ・ 場所 ・ 時間 ・ 関わり	・ 頻度 ・ 強度 ・ 反応形態	・ 状況の変化 ・ 周囲の関わり ・ 行動終結の状況
お子さんの情報	支援環境の情報	その他
・ 知的発達 ・ 言語・コミュニケーション ・ 得意・好きな事 ・ 苦手・嫌いな事 ・ 適応している状況	・ 支援者の方針・願い ・ 施設の状態 ・ 施設の文化 ・ 記録の有無 ・ 過去のエピソード	

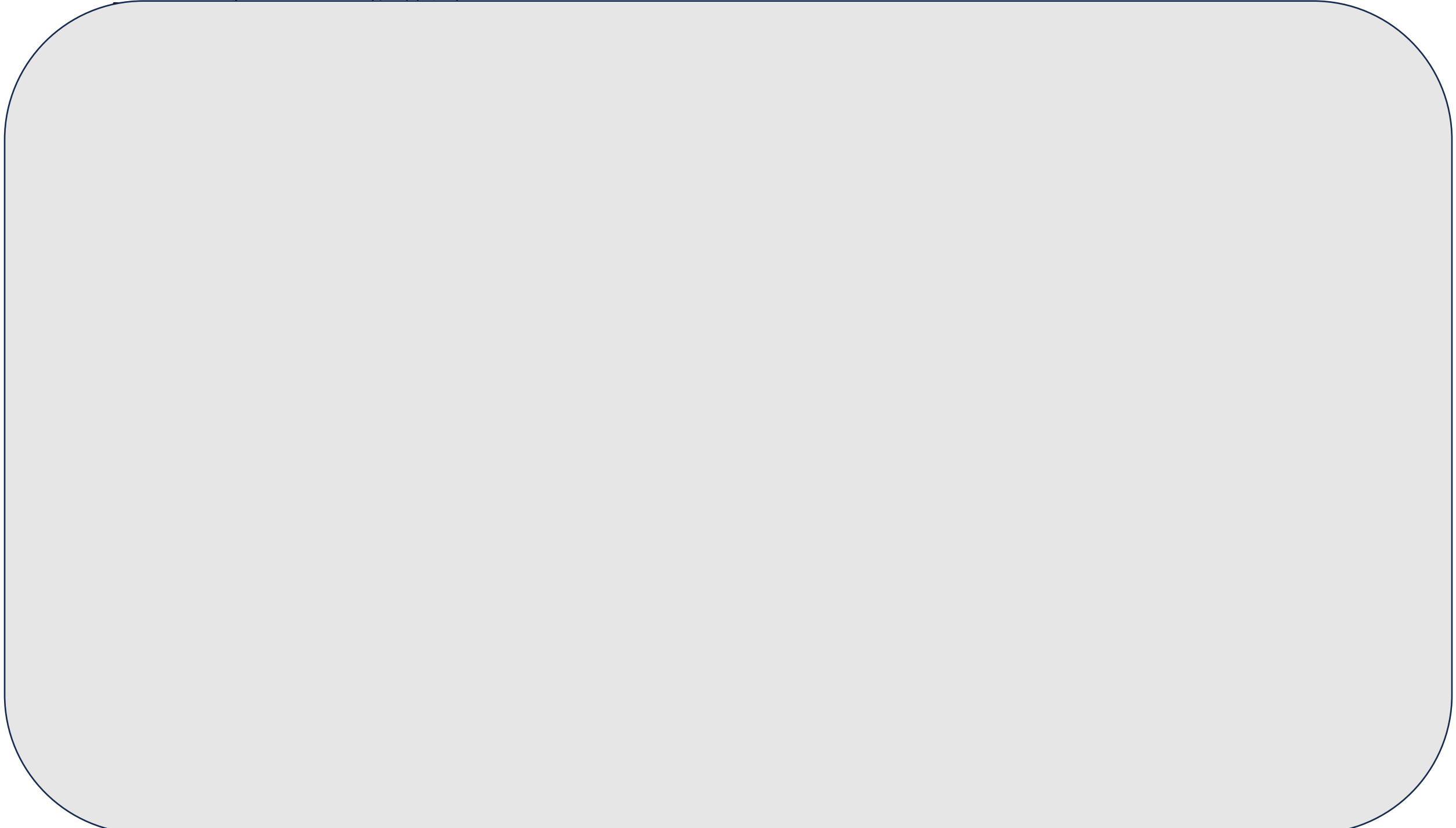
ストラテジーシート

記入日：

/ /

氏名：

	②	①	③
機能分析	A: 行動の前の状況・きっかけ	B: 子どもの困った行動 癇癢を起こし友人を叩く 	C: 行動の後の状況・結果 ☒ 回避 ☐ 注目 ☐ 要求 ☐ 感覚
	置き換え		
対処・適切な行動への置き換え	⑤ 事前の工夫	⑥ 子どもの適切な行動	④ 行動後はどんな対応が望ましい？
			C: 行動の後の状況・結果 ・どうやって褒めますか？



質疑応答タイム

